

「実習は憂鬱？」

疲れと幼稚園実習への不安がため息とともに漂っていた。保育実習と施設実習の2つの実習を終えた私は、正直、幼稚園実習のイメージがあまり湧いておらず、友人の話聞きながら、一体自分は将来何になるのだろうかと考えていた。

「ピアノ練習する時間ない」「4週間も実習に行くなんて耐えられない」。幼稚園実習が始まる前の教室には、数週間前に終わった施設実習の

ただそれだけであった。

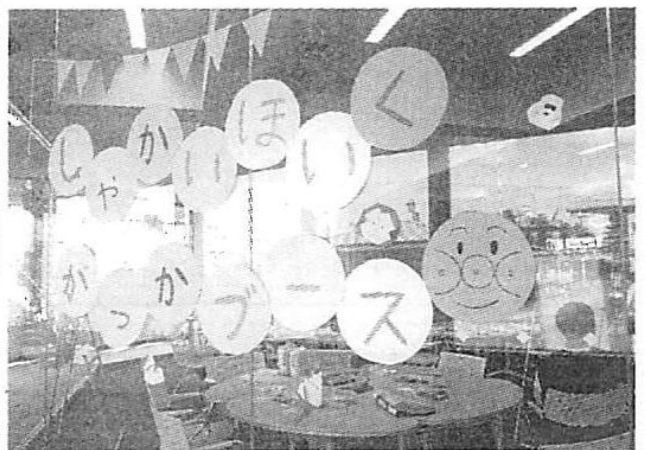
そんな理由で入学してから気づけば3年が経ち、周りが少しずつ将来のことを決めていくなか、3年生での実習が残りの1つとなってもなお、自分が将来どうなりたいのか私は想像が出来ずにいた。

他の実習よりも長い期間で行う幼稚園実習では、クラスの雰囲気や子どもの成長をまじまじと観察することが出来た。そのため、子どもたちの元気な一面だけでなく、自分の意志が通らなかつたり、苦手なことに取り組みなくてはいけなくなつたとき、周りの様子を伺ったり、周りにいた子どもたち同士で声を掛け合っている姿もみられ、子どもたちなりの葛藤や成長を感じることも出来た。

また、子どもたち

の前に立つという経験をを通して、保育者を観察するだけでは分からなかった「全体を見る」という大変さや、とっさに子ども達に伝わる声かけが出来ない難しさを身に染みて感じ、実習中、日誌を書きながら何だか自分がとても出来損ないのよう思え、どうしてもっと対策出来なかつたのかと後悔する日々が続いた。

しかし次の日の朝、私よりもはるかに小さい背丈の子どもが、その体の半分ほどある鞆を背負ったまま嬉しそうに駆け寄ってきてこちらを見上げ「先生今日何組？」と問いかけ



る保育者」という小さな目標が見つかつた。

て来てくれるその瞬間、何とも言えない幸せが湧き上がり、今日も1日頑張ろうと思えたのである。

幼稚園実習が終わつた今も、自分が将来どうなるのかが明確になつたわけではないが、幼稚園実習を通して、「子ども1人ひとりと向き合え

岡崎千歳

社会保育学科3年